

WHO 西太平洋地域におけるコロナ禍での結核対策

結核予防会
国際部長 岡田 耕輔

2021年版改定ストップ結核ジャパンアクションプランにおいて、新型コロナウイルス感染症に関する記載が盛り込まれた。これは、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、多くの国々で診断される結核患者数が減少していることが報告されているためである。ここでは、2021年3月に開催された第10回WHO西太平洋地域の結核制圧技術諮問会議・国家結核対策官会議で示されたポスト・コロナの結核対策についてその概要について述べる。

結核高まん延国における結核患者の報告数を2019年と2020年（暫定値）とで比較すると、最も減少の大きかったのはフィリピン（-37%）で、次いで、中国（-16%）、モンゴル（-11%）、ベトナム（-9%）、パプアニューギニア（-6%）となっており、西太平洋地域全体では20%の減少となっている。これにより、推計値ではあるが、約14万人の結核による過剰な死亡が発生することが危惧されている。

結核患者報告数の減少の要因としては、予定されていた地域における結核健診の中断、保健サービス自体への受診の抑制、結核ラボへの喀痰搬送の中断、消耗品の補給への悪影響、保健施設における結核治療の中断、結核患者報告システムへの入力遅れや未入力、新型コロナウイルス感染症対策への結核スタッフの動員などが挙げられている。

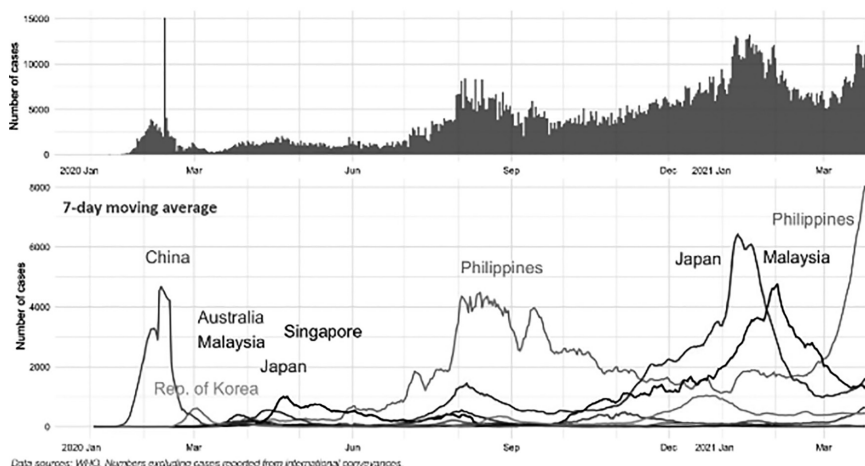
一方で、新型コロナウイルス感染症流行は、結核にとって悪い側面ばかりではないことも指摘されている。例え

ば、通常より長い日数の患者への結核薬の配布、施設での服薬支援ではなくコミュニティでの服薬支援の普及、スマートホンによる患者服薬支援の実施、紙ベースではないリアルタイムでの患者報告、専門家とのオンライン会議や研修の普及、保健や感染症への市民や政治家における関心の向上、感染予防や防御対策の実施・実行など、新型コロナウイルス感染症対策を契機に従来の結核対策の見直しにつながった効果も認められている。

WHOはこれらの経験を活かし、結核患者発見強化のためのキャッチアッププランの策定を通じて、落ち込んだ結核患者発見をできるだけ早く回復させたいと考えている。それには、新型コロナウイルス感染症と同様に結核の感染予防と防御の徹底、新型コロナウイルス感染症の検査を活用した結核健診の実施、患者の服薬支援におけるコミュニティの参加とスマートホンなどデジタル技術の有効活用、新型コロナウイルス感染症と同様な結核ラボのシステム強化、新型コロナウイルス感染症で学んだ他機関との連携や多様な財源の確保などを呼び掛けている。

最後に、結核患者の発見が落ち込んだフィリピン、中国などの国々では結核疫学への悪影響、すなわち結核罹患患者数や死亡者数の増加が懸念されており、新型コロナウイルス感染症流行の鎮静化に伴う人流の再活発化により、日本における外国出生患者数が再び増加する可能性があることを付記しておく。🍵

Epidemic curve of confirmed COVID-19 cases in the Region (as of 28 mar 2021)



各地域における新型コロナウイルス感染症の新規患者数の流行曲線（2021年3月28日現在）